

主要科目の特長（外国語学部英米語学科）

英米語学科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

（1）NGU 教養スタンダード科目

・キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

・自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来になりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

・情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI 教育の充実は、本学の情報教育の特色です。1 年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、ノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI 概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AI の基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

・言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

・社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の 4 区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

・教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

英米語学科生が履修する科目は大きく区分すれば、《基礎科目群》、《発展科目群》、《第二外国語科目群》そして「演習」の四つから成ります。これらの科目は全て選んだコースに関わらず履修することができます。

- 1) 《基礎科目群》は、本学部でぜひ学んでいただきたい、英語や言語一般についての科目から成り立っています。この科目群のうち英語力強化をおもな目的とする科目では、英語の skills を定着させ、さらに磨きをかけていきます。これらの科目は少人数制で編成され、英語の実践的な能力（「話す、聞く、書く、読む」の4技能）を養うことを目的とします。このため、1年次必修科目の「英語」科目では、各学期に週4回（各90分）の授業をネイティブスピーカーの教員と日本人教員の連携により進めます。特に、「Speaking」は、20名以下のクラスによって授業がおこなわれ、効果的に英会話能力を身につけることができます。「英語プロジェクト」はコミュニケーションスキルと言語知識を統合する科目で、自分の英語力をフルに活用して各学生が自分の興味に応じて選択したテーマについて調査しプロジェクトワークをおこないます。これまでの英語学習の基本的な部分に不安を感じている学生のために、習熟度別クラス編成を採用しています。現在の英語力と授業の難度・進度が合致し、学生が自信をもてるような編成です。うまく活用して英語力を伸ばすようにしましょう。

一方、《基礎科目群》には、教養ある話し手になるため皆さんに知っておいてほしい内容を提供する科目も含まれます。というのも、言語は文化や社会と密接に結びついたものであるからです。そして、こうした科目にも英語学習に役立つ情報が多く含まれています。

- 2) 《発展科目群》は《英語力発展科目》《国際社会科目》《キャリア形成科目》《外国体験科目》から成ります。《英語力発展科目》は《基礎科目群》で得た技能を土台として、より実践的な英語力の獲得をめざします。トピック別英語演習といった科目、ツーリズムなどで用いる実用的な英語を学ぶ科目、さらに、留学のための TOEFL 対策科目（留学英語・Academic English）や就職で求められる TOEIC の対策科目も用意してあります。英語で話すことが前提とされる授業はいわば留学して授業を受けているのと同じです。英語学習自体が目的ではなく、英語を用いて授業に参加することによって、実践レベルでの英語運用力の開発をめざします。

<英語で実施される科目一覧>

■基礎科目群

Speaking in English 1	Speaking in English 1 (再)	Speaking in English 2	Speaking in English 2 (再)
Writing in English 1	Writing in English 1 (再)	Writing in English 2	Writing in English 2 (再)
Speaking in English 3	Speaking in English 3 (再)	Speaking in English 4	Speaking in English 4 (再)
Writing in English 3	Writing in English 3 (再)	Writing in English 4	Writing in English 4 (再)
Reading in English 3	Reading in English 3 (再)	Reading in English 4	Reading in English 4 (再)
応用言語学講義 1 (Language Testing)	応用言語学講義 2 (Language Teaching Pedagogy)		

■発展科目群

Academic English	Advanced TOEIC	English for Tourism	Business English
News in English	Japanese Subcultures	Japan Studies in English	Global Issues
Reading & Debate in English 1	Reading & Debate in English 2	Research & Speech in English 1	Research & Speech in English 2
English for Presentations	English for Business Discussion	English for Business Writing	Language and Culture
Language and Society	Japanese Culture	American Studies	Intensive English

- 3) <<第二外国語科目群>>では「韓国語」「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」の授業を提供しており、いずれも各言語に関する幅広い知識の習得と運用能力の向上をめざします。
- 4) 「演習」(3・4年次必修)は3年次から始まります。「演習」(ゼミ)に参加して、卒業にいたるまでの2年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は3・4年次の2年間続けて履修しなければなりません。「演習」は英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、卒業研究をおこないます。

以上のように、本学科のカリキュラムは、受講者の力と関心に沿って学修ができるように編成されていますので、みなさんはその科目がもつ目的をしっかりと把握した上で受講してください。

- 5) キャビンアテンダントやグラウンドスタッフなどの業種で就職を考えている学生を対象とした人材育成プログラムです。ANA(全日本空輸)との連携による豊富な科目を受講することで、航空業界の知識の獲得に加え、航空業界で培われてきた「おもてなし」のスキルを学ぶことができます。また、講義だけでなく、中部国際空港などの航空関連施設での実地研修や、講師による個別就職指導も受けることができます。iWing プログラムへの登録は不要です。提供されている講義や研修から自由に選んで履修できます(注:一部で受講人数に制限があります)。

本プログラムは航空業界の視点で求められる適性を把握し、各自の今後の大学生活を方向づける一助となるものです。キャビンアテンダントの就職には TOEIC700 点以上が必要と

言われており、エアライン系に就職を希望する学生は 1 年次から英語力をつける必要があります。

1・2 年次で本学カリキュラムの下記の科目を履修し、3 年次には、各自で学外の専門学校で就職対策科目を学ぶことをおすすめします。その際、3 年次の専門学校での履修については別途費用が必要です。また、そこでの学修は本学のカリキュラム外のため、本学の単位認定はできません。

6) 充実のツーリズム（旅行・観光業）科目群

多くの学生にとっての希望業種であるツーリズム関係の科目を開講しています。ツーリズムでのビジネス経験をもつ専任教員による実践的な授業が展開されます。英米語学科の学生を対象とした科目なので、世界共通語である英語を用いた海外（アウトバウンド）ツーリズムを対象とするのはもちろんですが、海外から（インバウンド）の観光という観点からの内容も含まれます。エアライン講座科目とあわせて履修するとツーリズムに関心のある学生には就職に有利に働きます。

7) 中学校・高等学校の教員免許取得

英米語学科では中学校教諭（英語）と高等学校教諭（英語）の 1 種免許状を取得するための教職課程が認められています。中学校・高校の教諭になりたいという希望をもつ学生は、教職課程に加入し、計画的に必要な単位をとるように心がけてください。単位の修得にあたっては、「教職課程ハンドブック」を確認してください。

8) 日本語教員養成のためのプログラムの設置

日本語を学ぶ人に日本語や日本文化、日本の習慣や考え方などを教える日本語教員をめざす学生のために「日本語教員養成プログラム」を設置しています。このプログラムをとおして日本語教育のための基礎的・総合的な能力を身につけることが可能です。卒業所要単位に加えてこのプログラムで定める単位を修得すれば、修了証が交付されます。加入者募集は 1・2 年次の秋学期におこないます。

※このプログラムは「登録日本語教員」資格の取得に必要な要件を満たすものではありません。

（3） 演習科目

① 基礎セミナー

全学部の 1 年生の必修科目である「基礎セミナー」は、大学の学びに必要なアカデミックスキル（ノートの取り方やレポートの組み立て等）と、社会人として必要となるソーシャルスキル（時間管理やメールの送り方など）を学ぶ講義です。外国語学部では、この「基礎セミナー」を企業と連携した問題解決型の演習科目と位置づけています。ここでは、企業が提起する実務上の課題への取り組みをとおして、アカデミックスキルとソーシャルスキルを効率的に身につけます。大学で必要な知識を企業の課題解決に結びつけることで、企業での実務を体験し、大学生活の学びが実務上どれだけ有益かを理解することが目標です。

② 演習（ゼミ）

英米語学科では、3年次から「演習」（ゼミ）に参加して、卒業にいたるまでの2年間、専門的な研究活動をおこないます。卒業するために、「演習」は3・4年次の2年間続けて履修しなければなりません。「演習」はみなさんの英米語学科での学修の中核に位置し、学生生活の集大成をおこなう授業科目です。指導教員の指導のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や議論を通じて問題を解決しながら、自らの能力の向上に努めるとともに、人格的な交流をとおして、多くの友人関係を育成し、また、指導教員との間にみなさんの学修にとって有意義なコミュニケーションのパイプを形成してください。

「演習」は、指導教員と学生、あるいは学生相互間での学問的な意見交換の場であり、各学生が主体的に活動を進めていく点が、他の授業科目と根本的に異なります。そこでは、自己の学問的見解を進んで発表し、これに寄せられるさまざまな意見を聞くことによって、専門的知識の水準を高めていくことが必要です。「演習」で作成される卒業研究は、みなさんにとってはじめての本格的な研究成果となり、貴重な経験として、卒業後も役に立つことになるはずです。

また、「演習」ではみなさんの進路指導もおこないます。指導教員、他の学生（または先輩学生）と相談をしながら進路を選択し、履歴書やエントリーシート作成、面接の準備などをおこないます。

◎専門科目の一部をピックアップ

check! Global English		check! Global Issues	
			
何を学ぶのか SDGsの観点から世界中の問題について学ぶ。	将来にどう生きるのか SDGsを自分ごとと捉え課題への対処を学ぶ。	何を学ぶのか 国際社会を取り巻く諸問題について学ぶ。	将来にどう生きるのか 国際的な視点で他者を理解できるようになる。
社会問題、経済問題、環境問題など、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の観点から世界中の問題について学びます。様々なマルチメディアによる実世界のケーススタディや、ディスカッション、プレゼンテーションを行います。	SDGsの問題は、私たち自身の生活から行動を起こさなければならぬものであることを理解します。そして、世界が直面している課題や、異文化理解、協力、革新を通じて、グローバルな課題への対処を学びます。	国際社会を理解するための理論やグローバル化について、また具体的な諸問題、ナショナリズム、ジェンダー、貧困、開発、グローバル・エコノミーや人権などについて考察します。授業はすべて英語で行います。	私たちが住む地域と国際社会との結びつきを知り、国際的な視点でより深く他者を理解できるようになります。また、英語で学び、議論をするので、語学力を同時に高め、グローバル市民としての一歩を歩み始めることができます。

※内容やカリキュラムは変更となる場合があります。